1. 開会

事務局より開会のあいさつ。審議会の開催にあたり、委員13名中9名の出席により本会議が成立していることを確認。

(事務局)

今回の議事については非公開とする案件を含まないために公開としてよろしいか。

<「異議なし」の声あり>

本日の会議は公開とさせていただきます。それでは、藤田会長からご挨拶をお願いします。

2. 会長あいさつ（藤田会長）

みなさま、こんばんは。今日がいよいよ第4回目ということで、基本計画の半分までの意見については、前回相当議論いただきました。事前に送られてきた資料によりますと、相当部分が真っ赤に修正されております。これは、ここでのご意見を受けて、町の方も相当勉強されて、そのあたりほんとにみなさんのおかげで計画が練られてきていると感じております。

引き続き今日も、残りの部分について、忌憚のない意見をいただいて、是非いい計画にして答申をしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、前回の宿題の部分、ご説明のほう事務局からお願いします。

3. 議題

- ・ 審議会の傍聴（公開）について

開会において確認及び承認済

- ・ 第4次長期総合計画基本構想の体系について
- ・ 第4次長期総合計画基本構想について
- ・ 第4次長期総合計画基本計画について

事務局より配布資料の確認

前回審議会における議論（序論～基本計画）に対する修正点について説明

(会長)

ありがとうございました。今、お聞きになったように、あるいは事前に資料を目通ししていただいたらわかるように、以前より相当赤で直されているというか、付け加えられているんですね。非常に重要な部分なので、ここでのみなさんの議論を十分踏まえたものになっているかどうかを確認してから、残りの3章以下をきっちり議論していくという内容にしたいと思っております。

それでは、見ていきたいと思っております。順番に赤で修正されている部分を見ていきたいと思っておりますが、その中に木質バイオマスなどの新エネルギーの導入などという言葉が入っているんですが、すごく重大な話なんですが、いいんでしょうか。

(事務局)

新エネルギーというのはいろいろあるが、特に山林の整備を含めた中での資源活用という部分で今後検討を進めることになっている。

(会長)

総合計画の中に盛り込んで、答申後計画になった時には、当然それなりのやる気を示して、進捗管理していくことになると思いますので、相当な意気込みをもって書いたんだと思ったんですけども、町内で間伐材資源を活用した動きは何かあるんでしょうか。ペレットにするとか、薪ストーブにしていくとか、かつらぎ町の森林組合などでそういった動きあるんですか。

(事務局)

木質バイオマスについての研究は、今後やっていくという方向で進んでいる。

(会長)

実態としてないわけですね。これからやっていくという話なんですね。

(事務局)

はい。

(会長)

ここまで書く以上は、森林組合なんかと協働してこういったことに対する調査研究を進めるとか、具体的な施策の裏付けとして出てくると思うので、そこまで覚悟した上の言葉だと思います。普通はここまで踏み込んで書かないですね。あえて書かれているということなんだからいいんでしょうかね。

あとはどうでしょう、赤字のところ、先ほど対照表の中でご説明いただいた部分が、前回のみなさんの議論に基づいた修正がされているか順番に今見ているところですが、特に1節、1章、この辺ではお気づきの点ないですか。全く新しい文章として赤字でたくさん入っていますけれども、特にご意見ございませんか。

では、2節自然と調和したまちづくりですが、このあたりの議論はいかがでしょうか。特にさきほどの対照表で言うと、41ページのところ、公共交通の確保、前回委員からコミュニティバスのあり方ということで議論があった部分ですが、どうでしょうか。

路線バスと運行支援・地域コミュニティバス運行の効率を図り利用者ニーズに合わせたルート・ダイヤル、路線数とともに、利用促進、というような書き方で入っていると考えていいですか。「ニーズに合わせた」という言葉で踏まえていると考えるとよろしいですか。

(委員)

はい

(会長)

あと、都市基盤のところでも、これは前回特に議論はなかった部分だと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

この部分について議論はなかったが、1つはインフラ整備のことを前半に書いてお

り、後半に定住の関係で住環境の開発の部分が出てくるので、その部分についての拡散防止の部分について表現を入れている。

(委員)

かつらぎ町に用途指定地域はあるのか。

(会長)

かつらぎ町では都市計画区域はどうなっていますか。

新しく赤字で修正されているところはよく見てくださいね。他特にいいですか。

では、4節のところはいかがでしょう。4節は特に議論、修正点はないんですね、前回特に議論もなく、修正もなしということで、よろしいでしょうかね。

では、その次ですが、2章1節で活力を生むまちづくりのところですよ。特に農林業のところ、赤字修正が入っているところたくさんあると思うんですけども、ちょっと気になったところがあります。

町民農園という言葉が出てくるんですけども、今かつらぎ町の中にある町民農園というのは、自主運用方式で、コミュニティ醸成の場になっているのでしょうか。

非常に特徴的な仕組みだと感じたので、ちょっとご説明していただきたいと思えます。

(事務局)

かつらぎ町が設置した町民農園があり、場所はこの周辺（役場周辺）にある。交流の場を図るということと、今農地を持たずにおられる方が農業をするために集うことで交流の場になるということで考えている。

(会長)

土地の所有はどうなっていますか。個人の農家から借り上げたりされてるのでしょうか。

(事務局)

町有地を町民農園にしている。

(会長)

なるほど。相続の関係とか、そういった税金関係は一切問題ないんですね。

(委員)

いつから始めているのか。

(事務局)

昨年11月1日から公募により希望者を募って貸し出しており、まだ貸し出しされていない区画はあるが、ある程度は借りていただいている。

(会長)

新規で入ってきて興味持っている方が、そんなところを借りて、農家の指導によって、就農していけるような流れが仮にできるのであれば、税制面での問題がクリアできて、わりと長い間借りられるのであれば新規就農やりたいという都会からの人、移住の仕組みとして活用の仕方によったらおもしろいかもしれない、という気はしますね。

(事務局)

1区画20㎡で、農業がメインというよりも、交流の場を主に考えてやっている。

(会長)

細かい農園を貸しっぱなしにするのであれば意味ないですけど、今、関東でやっているように農家が一定の区画で、区分けするんじゃなくて、何人かの塾生を集めて、そこで営農指導しながらみんなで収穫とかやっていくような仕組みが作れば、充分それは就農希望のある人たちにとっても魅力あるものになると思います。

従来の市民農園みたいに、小区画を借りっぱなしのようだったらあまり意味ないですけど、やりかたひとつによって町が持っているんだったら、そんな活用の仕方もあるかもしれないということですね。

(委員)

町民の中にも貸して欲しいという人いるだろうが、町外の人たちを週末に集めてくるとか、ひとつはグリーンツーリズム的な、そういう活動を図ってみるとか、そういうことを考えていく必要があるのではないかな。

(会長)

委員のおっしゃったとおりだと思います。東京でうまくいってる市民農園・農園利用方式型という、個々の農家がやっているんですけども、そこは、好き勝手にさせないんです。月に何回か非農家の人たちを集めて、農家が講習しながら、みんなで作業する。収穫もみんなでやって収穫祭もやる。そうやった新しいコミュニティが町中にできて、非常に地域のネットワークがよくなる。これを町民農園でやるなら意味あると思うんですね。

小さい区分けで貸すだけなら、あまり意味ないかもしれない。あるんだったら、そういう生かす方法あるかもしれないですね。だから、コミュニティ醸成の場となっていると書いてあって、今後とも創出していくことが重要だと書いてあるので、そういうソフト的な運用の仕方を考えられてもいいと思います。

ここに書いてある、これらの制度や仕組みを通じてと書いてあるところを、従来の小分けして貸すだけの市民農園じゃない形で運用すれば、グリーンツーリズム的な視点を加えれば、変わると思います。そうでないと、単に貸し渡しているだけの市民農園だったら結局借りたほうも農業技術もないので、借りたまま放っておいて景観が悪くなっているというのがあります。

ちゃんと農家と非農家が結びつく場になれば、移住定住にも繋がる可能性もあるし、就農にも繋がっていくという可能性もありますけど、そこは、制度とか仕組みをどう構えるかなという気がします。

(委員)

この町民農園の管理はどこが行っているのか。借りる窓口は農業委員会なのか。

(事務局)

管理、窓口ともに企画公室で行っている。

(会長)

これは企画公室が窓口なんですか。それならば思い切ってそんな風に変えてもいいと思います。権利関係がないのでやりやすいと思います。そこはちょっと一度検討してください。

あと、残りの部分ですね。いわゆる認定農業者とか、それだけを書いてあっても、新しくやってみたいという人はなかなかとっつきにくいという話もあったので、今回は新たな担い手という言葉もいれていただいていますね。農業経営の経営改善についても、認定農業者の拡大というよりは、そのグリーンツーリズム的ないわゆる交流人口を高めるような文言を今回入れて頂いているのかなと思います。

タイトルは、農業経営の改善よりは、農業の多角化による交流型農業の促進などの方がいいと思います。最近、農業の複合化・多角化という言葉なんですね、昔でいう1. 5次産業ということで、最近では6次産業ということで非常に重視している。それが、多角化・複合化という話ですよ。農業経営の多角化・複合化による、交流型農業の促進という言葉だったら、内容と結びついてくるかなと思います。

あと、新たな担い手のところですけど、ここに、その将来に向けた意見を取り入れた施策というすごいあいまいな言葉あるんですけども、どんな意味合いなんでしょう。新たな担い手育成確保のところ、ネットワークを構築し将来に向けた意見を取り入れた施策とありますがどんなイメージなんでしょう。

そしてもう1つ、実はこれが1番気になったのですが、4の地産地消の促進と消費の拡大のところなんです。このような計画の中では、農業に関するところで、顔が見える安全・安心は外せないのに入っているのはいいんですが、京奈和自動車道などアクセスが改善されて、地元で生産された農畜産物や特産品の購買の促進を図る、あるいはアクセスが改善されて他の地域からやって来る人に対して売るということだけが掲げられているような感じになってしまいがちです。

つまり、地産地消の範囲をどう定めるのかということなんです。町民が町内の農産物を食べる狭い意味の地産地消と、国が言っている広い意味での、国産農産物の自給拡大に結び付くような地産地消、2通りあると思うんです。

例えば、「広義の地産地消」、広い意味での地産地消ということを入れておくと、地産地消の促進なのに、外の人に売ることしか考えてないのかという解釈のズレは防げると思います

もちろん、かつらぎ町の農産物が好きで、お隣から買いに来てくれるとか、大阪から買いにきてくれる人が増えても、それは地産地消でいいと思うんですね。顔が見えるから、その農家のモノを買いたいと思ってくるわけですから。

一般に地産地消と言えば、地元の産物を地元の人が食べるだけに捉えてしまいがちなんで、ちょっと注意が必要だと思います。学校給食なんかは、あきらかに地産地消なんですけれども、それ以外のところですね、注意が必要かだと思います。

あと、もう1点気になったのは、森林のところなんですけど、かつらぎ町内で森林組合、いくつあるんですか？

(事務局)

1つです。

(会長)

企業の森、持ってますか。

(事務局)

企業の森は、あります。

(会長)

あるんですね。それだったら、絶対ここに書き込まないといけないことがあります。

さっきの35ページの2番の森林を育てるところと一緒になんですけど、県の企業の森というのは、国のお手本になった和歌山県の一番すごい制度でね、今一番和歌山が進んでいるわけなんですけども、企業のCSRにおいて企業の社会貢献のなかで森づくりに関わってもらおうということです。

もし地元にも、組合があって、企業の森があるのであれば、やっぱり、CSRとか、企業の森を拡充させるとか、その辺の言葉入れておかないと、県の施策と連動しないです。企業の社会的貢献の場として、森林整備なんかには、組合の人とかに、都会の人に来てもらう、まさにこれ交流人口ですよ。龍神でも日高川でも、すごくそういった人たちがすごく市民労働者と一緒になって森づくりを支えています。なのでちゃんと、CSR・企業の森について県と連動して入れておいた方がいいと思います。他に、同じ農村でも平地と中山間では状況は違うと話がありましたがいかがでしょうか。

観光農園とかの書き込みがありますがよろしいですか。

(委員)

今、考えている町民農園は、家庭菜園程度のものを想定しているのかなと思う。広報にも載っていたが、今言われていたようなことをもっとやったらいいと思う。

(会長)

今、東京の練馬方式というのが全国的にどんどん広まりつつあります。和歌山ではどこもまだ導入していないんですね。だから、一番最初に和歌山に導入したら、かつらぎ町の市民農園、ものすごく注目されると思うんですね。町が持っているのであれば、思い切ってやってもいいと思います。

次の商工についてですが、先程のご説明にもあったように、相当の書き加え、前回の議論で言うと、地元にもいろんな企業があるということをもっと書き込むべきという意見がありました。あと、主として事務局の方で書き添えていただいたところは、農商工連携、前半の理念のところですが、農林水産業部分と連携して加工品開発を行うとか、そういったことが追記されていますね。

あと、工業振興と企業立地という新しい項目がきているということですが、いかがでしょうか。

(委員)

新たな、動きはあるのか。具体的な内容については書かないのか。

(会長)

特定の企業は書けないと思いますね。

あと、多くの自治体が今やろうとしているのは、農商工が連携できる場を提供するという事はやっています。つまりマッチングの機会ですね。農業者と商工業者が膝を交えて、少なくとも議論できる場を作っておかないと、なかなか商品まで結びつかないと思います。そんな場作りみたいなのをやるという言葉がここに全然ないので、誰がやるのかという話になりますよね。

例えば、行政がそういった場を提供するという事で、地元の優良な農業者と食品関係のメーカーと流通関係の地元の人を集めて、何ができるのかということ話を合える場を作るというような事は、あちこちの計画に入り始めています。つまり、農商工連携をいう以上は、それができる場をちゃんと作る、それがちょっと足りないかなという気はしますね。

(委員)

柿についても、いろんな製品があると思う。例えば、今柿渋というのが注目されているということだが、農業と商業が綱がっていけるような、そういう場を作って、協働で、かつらぎ町の名物になるようなもの考えることはできないか。

(会長)

47ページの商工振興のところ、その5行目ぐらいのところですかね。地元企業などが、農林水産分野と連携した新たな商品加工品開発を行い、地元住民や観光客に提供する。このあたりのところですね。

(委員)

どの程度まで具体的なことを書けるのかが分からないが、新エネルギーのところであったように、ある程度具体的なことを書いてもいいのかなと思う。

(会長)

なによりも、特産果実をたくさん持っているということが、かつらぎの強みになりますよね。柿だけ書いちゃうと他の品目が私は入れないのかっていう話になるので、特色のある農林水産分野ぐらいの言葉にしておいたら、かつらぎ町の特性が全部そこに入るかなと思いますので、柿だけに絞らない方がいいでしょうね。他にもいろいろ作っている方いらっしゃいますしね。

だけどやっぱり、場づくりは是非、書き込みをしていただきたいなと思います。マッチング機会をちゃんと提供する、創出する。

商工の関係については、どうでしょう。

(委員)

小さな小売店が、全く消えてしまった。私の住んでいる地域に30数件、鍛冶屋や金具屋などいろんな店があったが全部消えてしまった。酒屋まで消えてしまった。なかなか難しい。かつらぎ町だけではなく、どこも今難しい。

(会長)

中心市街地の活性化の問題になるとすごいですよね。昔と同じような活気を取り戻すようなことは非現実的かなと思うので、ちょっと違う仕組みが必要なんだろうね。その時には、人が来る仕組みを考えないといけないので、いろんな仕掛けをしていく、

街並みが再生されるような仕掛けをしていく、そのあたりは、観光と関わる気がしません。

観光サービス業育成のところ、48ページ・49ページですね。特にこのところは先ほどご説明頂いたように、農林業のところとリンクさせて、世界遺産だけに依存するのではなく、かつらぎ町の地域資源を生かした交流型の観光を進めるということですね。ニューツーリズムと言われている最近の観光部門ですね。これを書き込んでいただいているので、ここは、農業部門とリンクされているということですね。あと、これがはっきりわからないんですけども、「かつらぎフルーツ王国振興公社」というのは何でしょうか。

(事務局)

形式はNPO法人です。

(会長)

町からは、補助金などのお金は出ていますか。

(事務局)

補助金が出ている。

(会長)

そういうのがあるんですね。観光協会ではないのですか。

(事務局)

観光協会ではない。観光協会というのは町の組織の中の一部であり、かつらぎ町フルーツ王国振興公社は、かつらぎ町における観光の調査研究やPR活動などを活動分野にしており、今年度新たにNPO法人として設立された。

(会長)

そういうのがあるんですね。大いに活用されるべきですね。

(委員)

どこが所管しているのか。

(事務局 齊藤)

所管は、NPO法人なので非営利団体になります。町からはお金は出ていますけれども、運営そのものはNPO法人となっている。

(委員)

事務所はどこにあるのか。

(事務局)

事務所は、役場の中、昔の農地課の場所に設置されている。

(会長)

NPOに場所を提供しているわけですね。

人は何人くらいですか？

(事務局)

今は4名です。

(会長)

既存の組織が有効に活用出来たらいいですね。観光のところで、このピクトグラムという言葉なんですけども、これ、聞きなじみ、みなさんありますか。外国人観光客をはじめ誰もが理解しやすい、絵文字であらわしたものであることなんですけども、ユニバーサルデザインの使用という言葉に置き換えたらダメなんですか。一番一般的な言葉がユニバーサルデザインかなと思うんですけども。

(事務局)

これについては、和歌山県長期総合計画の中にも入っている言葉の一つです。

(会長)

ごめんなさい、勉強不足で。全然ぴんと来ませんでした。

(事務局)

ユニバーサルデザインと似てる部分はあると思う。

(会長)

観光の方はよろしいでしょうか。実際に、農家民泊をされたり、天野とか御所で具体的にされている事例があるので、中山間地域のやり方の一つは、こういった体験型とか交流型を受け入れるという形ですかね。

では、次にいきますね。1節の第4移住・定住のところですが、前回、この移住定住のところの7番ですかね、田舎暮らしのところの項目が少しおかしいというご意見があったところです。体系図を書きなおして頂いたんですね。

(事務局)

7項の言葉が誤っていたので改めている。

(会長)

それだけですか。ここは移住に関わるような具体的な項目が、子育ての話であれば後で出てきたりとか、整合性はどうかというような議論があったと思いますが、あえて両方に入れておくということですか。

(事務局)

そうです。ただ移住・定住だけを推進という言葉だけであれば、非常に特定された事業だけを並べがちになるが、いろんな事業が全て整うことによって、移住・定住の環境が整うということで、あえて二重的な言葉を入れている。ただ、各項目については、個々の分野の中でも盛り込んであるので、こういう表現にしてある。

(会長)

あと、7番に関しては、田舎暮らしの情報提供はどこがやるんですか。例えば、かつらぎ町で田舎暮らししたいという人がどこへ行けば、情報が継続的に得られるんでしょうか。

(事務局)

今は、産業観光課が窓口となっている。

(会長)

産業観光課が、田舎暮らししたい人の空き家とか、農地とか、農家の紹介とか、場合によれば宅建業者の紹介など、いわゆる県が言っているワンストップパーソンの役

割は産業観光課がやっているということですか。ワンストップパーソンという言い方をよくしますが、この一人に聞けば、すべてのところに繋がっていけるという人が、役場内にいるかどうかなんです。

かつらぎ町には、いるということですね。

(委員)

基本方針の中の新たな担い手のところだが、順番を言えば、まず確保して、育成して、就農という気がする。

(会長)

そうですね。確保して、育成してですね。新たな担い手の、育成・確保・就農じゃなくて、確保・育成・就業っていう順番ですね。

(委員)

そのほうが、しっくりくる。

(会長)

そうだと思います。あと何かお気づきの点、ありませんか。

では、2節のところ、安心して働けるまちづくりのところ。新たな雇用の創出というところで、企業誘致の話なんかでてきているんですけども、どうでしょうか。単なる企業誘致だけじゃなくて、いわゆる業を起こす起業、移住者なんかは農業やりながら付加価値つけた農家レストラン開業するとかケースよくあるんですけど、そういう起業があってもいいんじゃないでしょうか。

農商工連携とか移住者の特性を生かすという形の小さい起業、そんなものも視点としてはあるのかなという気はします。

(委員)

2番の「広域的な求人・雇用情報の提供・・・」というところですが、どうやったらできるのか。

ハローワーク、関係機関と連携し提供と書いてあるが。

(事務局)

ひとつは、広報を考えている。本人がハローワーク行くだけではなく、役場の分野で言えば、産業観光課になるが周知は広報・町ホームページなどになると考える。

(委員)

それは法律的に問題はないのか。ハローワークで出している情報をおかつらぎ町役場のホームページで出すというのは、問題ないのか。

(事務局)

法的なことは把握していない。

(会長)

よろしいでしょうか。すいません、先ほど言いました起業家について3のコミュニティビジネスのところに書きこんでいただいているんですね。他にはないですか、では、3章の方へいきましょう。

3章は、第1節、健康に暮らせるまちづくりの地域医療の充実、54・55ページ

のところからです。ここは基本的に前回と同じということで修正なしでよろしいですね。その次、病気の予防のところ、56・57ページですが、ここも修正事項なしですね。

第2節のいきいきと暮らせるまちづくり、1高齢者の社会参加のところ、ここは高齢者が知恵と経験を活かす仕組みづくりという言葉が新しく課題のところに入っています。その次の60ページは相当文言が加わっております。高齢者福祉の充実のところですが、特に現状・課題の部分で赤字がすごく入っているんですね。

(事務局)

この表現に関しましては、追記の部分になる。以前、お示しをした計画案の中にはなかった文であり、今年度、法改正になった部分を新たに追加している。

(会長)

現状と課題のところなので、特に具体的な方針なところについては、記載はないということで、方針の部分は前回同様のままになされております、よろしいでしょうか。その次、3の障害者支援の充実のところ、これも追記されたところが現状・課題のところですね。具体的な方針部分はそのままといいことですが、これも追記だけです。新しい法改正を踏まえた追記ということですね。よろしいでしょうか。

では、64ページ第3節、支え合うまちづくりのところの出産・子育て関係のところ、現状課題は同じで、その施策、取り組みのところに、1次世代育成支援行動計画の推進のところに「改善事項などを踏まえ、子ども子育て支援事業計画を策定し」という文章が入っているのと、3子育て支援サービスの充実のところに赤字で「幼保一元化」の話が入っているんですが総合子ども園ですか、前回ご意見ありましたか。

(事務局)

この部分については、特に議論はなかったが、現状として、こういった方向で取り組みを進めていくことになる。その中で以前の計画の中での連携というような表現がこれから進む方向にそぐわないことから表現を改めている。

(会長)

ということですが、よろしいでしょうか。

では、その次見ていきましょうか、66ページの2支え合う地域福祉社会形成のところ。特に変更事項なしということですね。

その次、第3社会保障の充実ですが、現状と課題に生活保護の受給者数に関わる現状認識の追加ということですかね。これを入れられたということと、生活困窮世帯の自立促進という69ページのところの文言と、国民年金制度のところに赤字修正がされています。特に4は、全面的に赤字修正が入っていますが、前回特に議論なかった部分ですよ。

(事務局)

この部分については、表現を改めたということであり、内容について変えたというものではない。特に、ここでは民生児童委員と社会福祉協議会と連携を追記した内容となっている

(会長)

わかりました。よろしいでしょうか。3節、第4コミュニティ活動の活性化ということですね、ここも少し文言が加わったということですね。

あとは、71ページのところ、1コミュニティ活動の活性化支援というところが、自治区、町内会間の連携強化の話が入っています。コミュニティが崩れつつあるので新たな地域活動の単位作るとか、いろんな取り組みが進んでいますけど、連携とか一体性が図れるよう支援するという文言が加わったんですね。これも前回も議論になかったですよ。

(事務局)

この部分については、追加した内容になる。

(会長)

これは当然必要ですよ。前回もいろんな組織がどう連携するのかというようなことが大事だということだったので、そういう視点から加えて頂いたということなんですかね。よろしいでしょうか。

あと、72ページの防災対策のところですね。これは、方針のところがありましたね。東南海・南海大地震を踏まえて、地域防災力のところに実践的な訓練という文言が入ったのと、初動体制ですね。これは、前回入ってなかったんですかね。

(事務局)

前は、初動体制の確立を図るという表現に留まっており、どういうことをするというのを具体的に書いた部分になる。

(会長)

わかりました。前回の内容を補足されたということですね。

74ページ、同じく消防のところですね、ここはあまり変わってないんですね。

次の76ページは、上下水道・し尿処理という言葉が入っていますね。これさっきご説明いただいたところですね。

(事務局)

前回、1章がそぐわないというのと水の保全という部分の議論あったが、その部分は1章に水の保全を中心に記載し、3章について安全安心な水の提供という部分を含めた中で変更している。

(会長)

前回、公共下水道の今の到達点がどうなっているのか、どこに問い合わせたらいいかわからない、到達状況をどこかでわかるようにという議論あったと思いますが、それは77ページのところのどこかに追加されているのでしょうか。

(事務局)

前回あった進捗状況についての意見ですが、その部分について、今後認可区域の見直しという部分が必要不可欠であり、具体的な数字を記載することが難しいことから、具体的な内容を表記していない。

(委員)

老朽化し更新が必要な水道管がどこ地域にあるのか、把握できているのか。

(会長)

データはあるはずなのでわかりますよね。

(委員)

地震や事故により、たくさんの世帯がある地域で老朽化した水道管が破損したら大変なことになる。水道事業所と話し合いをした中で計画的にどう進めていくのかということが必要になってくる。ただ文章的に表現して終わってしまうだけなら、意味がない。

地域を中心とするコミュニティ作りについての町の支援について期待しているが、それぞれの地域・自治区は、町からお世話をしてもらわなくても、自分達で地域づくりしている。

(委員)

山間部の未給水地域というのは、私が住んでいる地区は上水道の施設はあるが、家に水道を引くのに、100万ぐらいかかる。この未給水地域というのは、施設がないということ指しているのか。

(会長)

77ページの1番上ですね。

(事務局)

上水道あるいは簡易水道ということからいえない地域もある。

(委員)

水道を引くための経済的負担は大きくて、定住しようと思って古い民家を買おうと思って負担金が払えないので、あきらめて引っ越ししてしまう人がいる。水道は生活に欠かせないものなので、その辺の支援があればいいと思う。

(委員)

76ページの「公共下水道は文化的な生活を送るうえで必要不可欠な施設」という部分の書き方を変えてもらえた方がいいかなと思う。

(会長)

今の部分も、先ほどご意見あった部分も、今すぐは答えにくいかもわかりませんが、書いた以上は書いた内容について具体的にどうするのかと言われたときに、常に答えられるモノをもっておかないといけませんよね。長期総合計画の文章に出てくる意味はすごく大きいんですよ。

4 消費者保護のところの現状課題、基本方針は変わってないですね。あと、取り組みのところの情報提供・啓発のところ「消費者問題についての情報提供」ということで限定されたわけですね、これは特に問題ないですね。

最後が人権尊重社会の実現のところですが、80・81ページのところ、ここまでが前回議論したところですが、とくに修正事項なしということですね。

一応、前回議論した3章までのところ、もう一度赤字修正が入っているところ、見てきましたけども、いくつかの意見が出されたと思うので、もう一度文言を入れ直し

たり、わかりやすくしたりとか、付け加えるところはしていただければと思います。

それでは、今日新しく議論するところ、第4章に入りたいと思います。

お配りいただいた資料ご覧いただき、4章・5章・6章について、議論を尽くしてほしい、というポイントなどは事務局からはありませんか。

(事務局)

4章については、教育環境の分野が中心となっている。この分野については、再度読んでみて、気付いた点のみ修正を加えている。教育環境の分野や生涯学習などについて議論いただきたい。

(会長)

わかりました。実質的には、前回同様の状態のままということですね。

4章の部分いかがでしょうか、まず最初からいきましょうか。

4章は4つの節から成り立っておりまして、豊かな人間性を育むまちづくり、子どもを守り育むというところと、学びと参加、それから相互の尊重、交流ですね。この交流という概念なんかも地元の中のコミュニティの交流だけじゃなくて、地域とか国際ということで非常に大きな交流の中身になっております。

まず順番に1節子どもを守り育むまちづくりというところでは、教育環境と青少年の健全育成、というところがありますのでこのあたりどうでしょう。

(委員)

子どもたちの健全育成というところに関しては、今まで町では、リーダー研修などのいくつかの行程で実施されていた。これは各子ども会の活発な活動に非常に役立っていると思う。リーダーになる子どもたちは年々、少子化が反映して人数が少なくなっているが、やはり、そのような研修機関・養成機関・行政機関が連携して取り組んでほしい。

(会長)

制度が非常に重要な役割果たしているということは、基本計画の内容には充分反映されておりますでしょうか。大丈夫でしょうか。

(委員)

紀北青少年の家が、かつらぎ町にあることも関係していると思うが、こう事業をしているということで、施設名とかは書かないのか。

(委員)

具体的には書いてない。内容としては、現況の中で説明いただいていると思う。子ども達が興味を持つような文言を入れていただきたい。

(会長)

例えば、どんな文言、キーワードがあるでしょうか。

(委員)

リーダー研修が始まった時点では、子どもも大変興味を持って大勢参加していたが、今だんだんと参加する生徒が減ってきているので、活発な研修会ができるような、そういう雰囲気を作れば、子ども達は喜んで参加してくれるのではないかと。

(会長)

研修メニュー・プログラムなんかをもう少し、魅力あるメニューにということで、今、委員がおっしゃっているとこは、どの辺の議論、どのへんのところで、汲みつくせることになりますか。

(委員)

82ページ、現状と課題の6行目、指導者・リーダーの育成、ここにジュニアリーダーのことを書きこめばいいのではないかと。現況のところでは重要な役割果たしているとお書きいただきたい。

小学校、中学校、高校へ育てて行き、その高校生へ育てた子供らが小学校の子どもを指導している。

(会長)

それも参加者が、今おっしゃったように、少子高齢化で少なくなっているから、もう少しここに書き加えていただくということですね。

(委員)

リーダー研修も、小学校5年生が対象のように聞くと、子どもが少ないところは4年生から参加するところもある。35年ほどやっている行事になるが、その親がまた子どもを進めるような魅力がなくなっているように思う。積極的な子どもはそれに参加していろんなことに取り組むが、消極的な子どもは背中を押してあげないとできない。

(事務局)

参加を促すような表現ということですか。

(委員)

今の子どもは、習い事などで土日忙しい。通学合宿とかでもせっかく参加しているのに塾や習い事とかで抜けてしまうので意味がない。

(会長)

公民館活動が盛んだと言われている長野県の飯田では、公民館の中に育成部という組織を作ったり、子どもを地域ぐるみで育てていくということやっていますが、今一番の問題は、中学校や高校になると、クラブや塾でどんどん抜けていくということなんです。

地元で大学や働くところがないので、一度出て行くんですが、出て行く直前の子ども達が地域と関わっていないという状態になっていて、これをどうするかということが悩みになっています。いい経験とかそれぞれ持っていると思うんですけども、いま上手に受け継がれていないんですね。地域との接点、つまり親以外の大人との接点がどんどんなくなっているから、うまい仕組みができればいいんですけども、コミュニティの再生に関わるような話になりますが、解決策までは書き込めないにしても、先ほどコミュニティのところと連携して、青少年の育成のところにもお書き頂きたいですね。

(委員)

83ページの2番の学校教育、内容の充実っていうところで、道徳的な教育になるが、防災知識の高揚という意味のことを書けないか。

(会長)

それは大事なことですよね、今あちこちの小中学校でやっていますからね。

大事な視点だと思いますので、書きこんでいただけたらと思います。

(委員)

今、地域の子ども会活動はどんな形で行われているのか。

(委員)

結構盛んに行われていて、各子供会のカラーがでていると思う。

ただ、子どもが少なくなって、子ども会が細分化しているし、育成という形でまとまっている。育成単位であれば、たくさん子どもがいるので、大掛かりなこともできるが、1つの子ども会単位なら、少ないのであまり多くのことができていないというところもあると思う。

参加人数が少なくなって、子ども会の再編を考えたらどうか。

(委員)

地域における格差が非常に大きいと思う。文化祭とか、ギネス大会とか、そういう子ども会活動の中の一つとして、リーダー研修を受けた子ども達が運営に携わる、それを手助けをしているのが現状なので、地域の格差を少なくするような指導方法を、先生方と、いろいろ考えていかなければいけないと思うが、参加人数の減少については、大変難しい問題だと思う。

(委員)

昔の子ども会は、校外討論会という組織があって、夏休みとか春休みに校外討論会で学校の先生方が関わって、その地域の子どもを指導するという取り組みもあった。いま、そういう取り組みを聞かない。今、青少年センターがいろんな形で関わってくれて、地域によっては取り組んでいるところもある。

(委員)

昔は、子ども会に半強制的に参加するという行事が多かった。今、家庭サービスの方に重きをおいて、他のことに行ってしまうから参加人数も少ない。親の考えが変わってきている。行ったらいいというのがわかっているけども、家の行事を大事にしている。

(会長)

地域との関係というのもあるんですけども、さっきお話をした長野県飯田市がどういう対策をとろうとしているのかというと、専門学校や大学もないので、一度子ども達が出て行くことは仕方ない。だけど、出て行った子ども達がふるさとのことをどう思って出て行ったことが大事なんであって、地域のコミュニティの中で子ども達を教育する機会を作るというのも1つだけども、飯田市は、ワーキングホリデーとか体験民泊とかいろんな人たちが出入りするところなんですよ。

だから、自分の家にいろんな都会の人たちがきて、飯田はいい、農村はいいと言う。その子たちは農村はいやだと外へ出て行きたいのに、都会の人たちは農村いい、いい

と来る。なんでこういったことなるんだろうかということ、例えば、地元の中高生が、東京とか色んなところから農村に勉強にくる大学生と交流することで、自分たちのふるさとって他の人から見たらこんな風に見られているということを書いて出ると、単なる出て行きっぱなしにならないんですよ。

そういった仕組みが大事なのかなと、移住とかで来てもらうまちづくりするのでもいいんですが、地元で育った子ども達に、一度は外に出て行くかもしれないけれども、ちゃんとふるさとを支えてくれるような教育をどういう形でしておくかということですね。

(委員)

教育内容のところに、ふるさとを愛する教育というような、83ページの学校教育内容の充実、地域資源を標題にするとか人材を活用するとか書いてあるので、それにふるさとを愛するというようなことを書けないのか。自分の住んでいるところを好きになるというのは、人格の土台というか、自分を肯定する土台になると思う。好きだから帰って来るといえるものがあると思うので、ふるさとを愛するとか誇りに思うとかって書いてあるところがあつたと思うが、このところも書いた方がいいのではないかな。

(会長)

項目で欲しいぐらいですよ。特に子どもを守り育て、その子ども達が次のかつらぎの担い手として、そのまま定着してくれればいいけども、そうじゃなかったとしても、出て行ってから、ふるさとを守りたいんだという人が大事だと思います。かつらぎ町には住んでいないが周辺にいて、助けに来てくれるって人、結構いるんですよ。そういう人をちゃんと組み込んだまちにしておかないといけないという気がします。

どのようにふるさと教育をするのが大事、昔ながらの徳育だけじゃなくて、ふるさと教育、ここに書いてあるように地域の資源をどう見るのか、農商工連携なんかに出てきてましたよね。普段当たり前だと思っていた資源に今いろんな光が当たっているということ子ども達と一緒に発見するのもいいと思います。

笠田高校でもいろんなことやってますよね。高校の中で取り組んだりとか、もう少しそのところと連携してもいいのかなと思います。もっといえば、地元には和歌山大学があるので、大学と高校とが連携して次世代をどう育てるかということで高大連携があつてもいいと思います。

農業のところにも書いてあつたように、教育もNPOとか大学と連携して和歌山大学教育学部あるしも観光学部も地域再生もありますので。それと連携した、子ども達の育成の場作りを行うとか、それぐらいは書き込んでもいいのかなと思いますよね。

(委員)

これからの子ども達の教育で、ふるさとを愛するというところで体験学習に取り組んだり、そういうこととして職業・勤労の大切さというものを学ぶというのはいかがでしょうか。

(委員)

中学で2年生を中心に行っている。

(会長)

体験交流で外からの人が地域に来る時に、地元の中高生とうまく接点を交える機会を作る方が刺激が大きいですね。学生連れて御所地区に行ったときに、御所の地元の方たちが言ってましたけども、「なぜ、こんなとこ来るの」というんですけども、学生達は新鮮で、すごいなといいながら来るんです。

「コンビニもなにもないし、いいところだとは思わない」というところから話が始まるんですけども、そんな機会を作ることで他人の目を借りて子ども達を育てることもできると思います。まさに、交流の地域づくりをかつらぎ町のキーワードにするのであれば、交流の機会を活かしてうまく子ども達を育てることもできる、コミュニティや地域でできることもあるけど、交流でやれることもある、そんな視点が是非ここでは欲しいなと思います。

委員がおっしゃってたように、項目の1つとして、ふるさとに愛着をもつ、誇りを持つ子ども達を育てるぐらいは入れたいですね。

(委員)

84ページの基本方針の最後の方で青少年の相談体制とか問題未然防止ということが書いてあるが、現状として思うのは、ちょっとつまずいてしまって不登校になったりひきこもってしまったりという青少年の居場所的なもの、支援体制が十分でないように思う。かつらぎ町として単独でやっていくのは難しいと思うが、サポートしたいという気持ちのある人はたくさんいる。しかし、最終的に自立や仕事したりということについては気持ちだけではなんともいえない部分があるので、実質的な自立支援体制的なものがないかと思う。

(委員)

学校給食のところで食中毒防止対策について書かれているが、アレルギーについての書き込みをいれてもいいと思う。

(会長)

83ページのところですかね、4学校給食の充実のところ、そういう文言も入れたほうがいいのかということですね。よく言う、好き嫌い、アレルギーの峻別難しいところあると思うんですけども、アレルギーがある子とかいるのでね、そこは当然配慮した方がいいと思います。

他、いかがでしょうか。この4章お願いします。

(委員)

地域間交流、国際交流のところで、姉妹都市、守口市が姉妹都市であるとか中国の莱西市が姉妹都市と書いてあるが、これを読んだ時になぜ姉妹都市なのかということがわからない。

何か理由があって姉妹都市になっていると思うので、理由がわかって、それが町の特徴になることであれば、書いた方がいいのではないかな。

(会長)

あと、いつから始まって、どういう経緯で、というような注意書きぐらいは入れた方がいいかもしれませんね。和泉市とか守口市は、30周年と書いてありますけど、

山東省はどうなんですか。

(事務局)

山東省の萊西市(らいせいし)と読みますが、当時、JAに農業研修で来られた中国の方がおり、そこから発展をしてきたという経緯がある。

(会長)

それをきっかけにということを書きで入れられた方がいいと思います。なじみがない方はわからないと思います。

(委員)

中国の萊西市というところにフリガナをつけて欲しい。

(会長)

あと、4章はいかがでしょう。

なければ5章、6章に入ってご意見頂戴したいところなんですけども、5章をご覧ください。

5章はみんなでつくる協働のまちづくりということで、節が1つしかなくて、住民主体のまちづくり、協働によるまちづくりというところですが、いかがでしょうか。

協働という非常に重要なキーワードなんですけどボリュームが少ないですね。ここ非常に重要なキーワードだと思うんです。先ほどのコミュニティのことなど、いろんな話のエッセンスがここに相当関連する話だと思うので、書き加えていただいて、もう少しボリュームアップされてもいいかなと思いますね。

(委員)

住民の意識としては、協働のまちづくりとはどういうことなのかという考え方の人が多いと思う。

(会長)

協働とは何かということと、なぜ求められているのかという現状のところもう少し書きこまれたらどうですかね。

(委員)

まちづくりをしていくために町がどんなことを住民に期待しているのか、住民にどんな協力を、協働を必要としているのか、その辺がわからない。既に自治区の中でいろんな取り組みがされているので、町はいったい何を望んでいるのかということになる。ボランティア的なことについて、まだそれ以上に、行政に奉仕・協力していかなければいけないのかというような考え方を持つ人がいるのも事実。だから、そうじゃなくて、こういった形のまちづくりをしていきたいという具体的なことを出していく必要があると思う。

(会長)

そのあたりの事務局としてはどうですか。

(事務局)

行政と住民の役割や、求めているものなどについて整理をしたい。

(会長)

協働とは何なのか。なぜ求められているのか、ということをもっとわかりやすい言葉で最初に書いた方がいいですね。

他にどうでしょう、5章のところ。

こうやって公募委員の方も含めて、総合計画を議論してるということも協働の一環だと思うんですね。なかなか、総合計画に公募委員の方が2名入られているのも少ないので、そういう意味では、町民の意見をくんで議論をつくそうということでやられているのが、この審議会の特徴でもあるんですね。いかがですか、特によろしいですか。

では、最後の6章のところです。信頼される役所作りということで、一生懸命みなさんの意見を聞いてきて、宿題で赤字や青字に修正されていますが、これが本当に実施されるかどうかですよね。改革によるまちづくりという節の中に、行政運営の効率化と財政の健全化と情報公開の推進というこの柱がありますが、このあたりについてのご意見いかがでしょうか。特にこのあたりのところでご意見いかがですか。

(委員)

よその町に住むということがあった場合に、職場が近いとか交通の便がいいとか比較すると思う。なので町民が自慢できる行政サービスというのでも欲しいと思う。

(会長)

住んでみたくなるとか、交流人口を増やして守ろうとするなら、大事ですね。それは、どうでしょう、6章の中の役所づくりの中に入るのか、それともそれぞれの節に即して入れるのか、難しいところですね。どっちに入れるか。

(委員)

例をあげれば、ニュースになった24時間開いている市役所というようなもの。

(事務局)

そういったもので自慢できるものがあるなら検討する。

(委員)

僕たちは、小学校・中学校で給食がなかった。他府県出身の人たちと話の中で給食の話になった時に、寂しい思いをすることがあった。今では、子どもの頃の弁当は、ある意味うらやましいと言われるが、若い子たちにしてみれば、給食が無いというのはさびしい思いにならないか。

(会長)

給食の実施率は、小学校は全国で96～7%、中学校はすごく差があって、和歌山だと47～8%、大阪13%ですけども、特に近畿が圧倒的に低いんですね。

6章は、役所の仕組みに関わる話を中心だと思います。運営の効率化とか財政、情報公開というところなので、普段の役場の有り方に関わって疑問に思っていること、普段お感じになっている悩みを反映させることができればいいと思うんですが、いかがですか。

どこに書き込めばいいかわからないんですけども、これだけみなさん集まられて議

論している結果、いい計画ができたとして、答申してからあと、審議会としては、せっかくここで議論したものを絵に描いた餅で終わらせて欲しくないなと思うので、やっぱり計画をほんとに実行しているのか、という進捗管理をするような機関がいるんじゃないかなと思います。

どこも長期計画作ったら、機関ごとのアクションプランを作って、そのアクションプランができていくか進捗管理するという時代がきているので、絵に描いた餅で終わっているのか、書いたことをちょっとでも進めようと思って、今ここまでやっているよと常に確認するような仕組みを持っているのかいないのか、これは大事な視点ではないのかなと思うんです。

これは、4～6章のどこに書けばいいのかわかりませんが、チェックする場をどこかで作っておくということが、計画実施に対する担保になるのではないかと思います。例えば、この審議会委員の内の何人かが参加して、ほんとにあの時議論したものがどうなってるのか確認できるような、そんな場が必要だと思います。

(事務局)

事務事業評価という部分になるかと思う。

(会長)

第3者評価ですね。仕組みは作って欲しいところだと思いますね。作った計画に対して、町民に対し責任を持つ、という気合いは入れて欲しいという気がします。

あといかがですが、このあたりについてのご意見。

一応今日の議論としては、主たる部分の1・2・3章については、前回出された議論をもとに事務局で再び拡充していただいたところを含めて、今日は議論を済ませました。宿題となっている部分がありますので、それは次回最終確認をしたいと思います。

あと、4・5・6章について頂いたご意見についても、次回その折に合わせて確認を行いたいと思います。次回の会議でもって、この基本方針の骨格部分は全部出そろって全員で確認をするということになると思いますので、今日の会議は確認してよろしいでしょうか。では、最後に副会長から、今日の議論を振り返ってまとめの言葉をいただいてから、事務局の方にマイクを返すということにしたいと思います。お願いします。

(副会長)

毎回、この審議会に出席させていただいて、みなさんとともに審議させていただいております。今になってようやくわかりかけてきたかなというのが実感でございます。もう終わりが近づいてきた最中ではございますけども、そのように思っております。自分もわかっているつもりでしたが、なかなか理解しきれていなかったなと反省しきりです。会長の大変円滑な進行は大変勉強になったところでございます。

一番最後の方でございますけども、行政の改革の問題でございますけども、改革していかないといけない部分については、確かに大事でございます。ただ、あまり行政のスリム化、職員を減らしていくということは果たしていいのだろうか、住民サービ

スの低下につながっていくのではないかと思います。

よく役場に来させていただきますけど、知らない顔の職員がたくさんおります。ほとんどアルバイトという状況ですし、先ほどのNPO法人が立ち上げられたのも知りませんでした。自治区長会に各課からいろんな報告がされますが、その内容が説明されておられません。情報提供の不足だと思います。そういったことがこれから職員が減ってくれば、たくさん生まれてくるのではないかと思います。

協働のまちづくりにつきましても、職員によく聞くんです。協働のまちづくりについて町がどんな方針を立ててしようとしているのか、と聞いたら、答えがまったくかえってきません。そんなことがこれからないようにしていくためにも、スリム化の問題は考えてもらいたいと思いますのと、もう一つは、アルバイトや臨時に任すという考え方をなくして、もっと職員の充実を図っていくということが大事だということのように思います。

財政の問題もあると思いますが、すべて財政の面からカットしていくことは、住民のサービスの低下につながっていくと思いますので、その点十分に配慮していただいて、これからこういうことを具体化していくうえでも、大切なことにつながっていくと思いますので、その点を事務局の方で押さえていただきたいと思います。

町の発展を願うのは住民でありますし、そのことで、自分たちがプラスになっていくことがあると、こういうことになっていこうかと思っておりますので、その点ご理解いただいて、取組んでいただけたらなと思っております。今日は大変遅くまでみなさんごくろう様でございました。